

奉仕の心と感謝にあふれた 金城生のボランティア活動

52年の歴史を誇るキャラバン隊、
夏休みのボランティア活動など
高校ではさまざまなボランティア活動が
行われています。
今年行われたキャンプや募金とともに、
活動の様子をご紹介します。



キャラバン隊の生徒の皆さん。後ろにある黒幕は、人形劇の時に使われます

キャラバン隊活動を通して 奉仕と感謝を学んでほしい

金城学院高校のキャラバン隊は
1956年以来、52年にわたって活動を続
けています。発足以来「奉仕させてい
ただく」をモットーに、山村の子ども達
やお年寄りに人形劇を披露、これまで
にたくさんの方々に喜びや楽しさを伝
え続けてきています。

今年も36名の生徒達によるキャラ
バン隊を結成し、4～6月まで人形や台
本作りを行い、授業後に練習も重ねま
した。また春には校内合宿を行い、外
部講師を招いて手遊びや歌の指導も
受けました。同じ場所を訪問すること
もあるので人形は毎年作り替えをしな
くはならず、生徒達も一生懸命。時
には卒業生が来て、人形作りや台本作
りの指導をしてもらったりもします。主
な訪問先は教会や幼稚園、老人ホーム
など約10ヶ所で、訪問先の方々とより
一層ふれあえるよう、夏休みには練習
と公演をかねて三重県大台町で合宿
を行いました。

生徒はみな、それぞれの訪問先に
合った台本を考え、練習を繰り返しま
す。その表情は真剣そのもの。当日は
お互い初対面であるにもかかわらず、
楽しい人形劇を通してその場にいる
人みんなが笑顔になれたのが印象的
でした。はじめは緊張していた生徒も
徐々にいつもの練習の時の気持ちが
戻ってきたようで、素晴らしい人形劇
を熱演。それぞれに「ありがとうとい
われて気持ちが晴れ、私も笑顔になり
ました」「全員で励まし合いながら本番
を迎え、私たちと観客の方々が1つにな
れた瞬間を実感しました」と高揚した
気持ちを私に伝えてくれました。仲間
と一緒に1つのことを成し遂げ、それが
多くの人々を笑顔にする。生徒は大
きな充実感を味わったようです。

幼稚園の子ども達やお年寄りから
もたくさんの「ありがとう」の言葉をは
じめ、「若い人たちから元気をもらって
うれしかったです」との言葉もいただ



キャラバン隊を指導されている
岩谷真実先生

きました。生徒からは「自分が人のた
めに少しでも役に立てたことがうれし
い」「感謝される喜びを知りました」な
どの感想も聞かれ、私としてもこの活
動のすばらしさをあらためて認識い
たしました。

この活動の人形製作費や訪問先へ
の移動費などは全校生徒の献金でま
かなわれています。生徒達には多くの
人々に支えられながら奉仕活動がで
きる喜び、また感謝の気持ちを忘れ
ないで活動を続けてほしいと願って
います。

生徒達の献身的な活動に 訪問先から喜びの手紙も

以前から行われている高校のボランティア活動はここ4～5年の間に徐々に規模が大きくなってきています。今年も1年生110人、2年生84人、3年生14人の計208人が夏季ボランティアに参加。ボランティア活動の指導担当である私こと鎌井泰が見守る中、今年もさまざまな場所で奉仕活動を行ってきました。

生徒は初めての訪問先で勝手がわからず、困ることもあったようですが、金城生らしい優しさと思いやりにあふれた心で人と接し、各訪問先で一生懸命お手伝いをしたようです。そ



のお礼として先日、弁当宅配をされている「清水なかまの家」様からお手紙をいただきました。こちらに訪問した生徒達について「野菜の下ごしらえや鍋釜の洗浄など積極的に働いてくださり助かりました」とのお言葉。また配達に関しても、「いつもは何度声をかけても曖昧な返事しかな

かった目の不自由な男性利用者が、生徒さんの声を聞かれて嬉しそうにしていた」「半身麻痺の男性もいつもはお弁当を事務的に受け取るだけだが、生徒さんといろいろ話をされてうれしかったよう」など、利用者の方々にも喜ばれたことなどが書かれており、私も生徒もうれしく思いました。

他にも児童館で子ども達と遊んだり、教会の炊き出しボランティアなども行い、それぞれに生徒達は一生懸命活動を行いました。

ボランティアは普段の学校生活では接することのない方々と接する機会であり、現実を知ることにより人間的に成長できる活動であると思います。生徒達にはぜひ継続的に参加してほしいと願います。

自然や人と交流した3日間 楽しいサマー体験

今年の8月4日から6日まで、愛知県豊根村で「自然と人との交流」をテーマにサマー体験を行いました。厚生課主催のこの体験は自然や人とふれあひながらボランティア活動をすることが目的で、宿泊をしての活動は高校としては初の試み。28人の生徒が楽しく参加しました。

茶臼山ではシバザクラの手入れを、豊根村では保育園、小学校、老人ホーム、ブルーベリー農園の4ヶ所に分かれてボランティア活動を実施。保育園や小学校では子どもと遊んだり、老人ホームでは話を聞いたり歌を歌ったりしました。またブルーベリー収穫の手伝いも生徒にとっては新鮮だったようです。



宿泊したログキャビン周辺の清掃もきちんとして行い、また豊根村の食材を使ったバーベキューや帰りの立ち寄り温泉も生徒にとって楽しい思い出となったようです。「もう1回行きたい」の声もたくさん聞かれてうれしく思いました。来年からも続けていければと思います。



生徒達が考えて実行した 四川・ミャンマー被災募金

今回、7月9日～18日の9日間にかけて「四川・ミャンマーの被災者支援募金活動」を行いました。この活動は日本国際飢餓機構の清家弘久先生の講演と礼拝から始まり、「既成の活動にとらわれず心を込めたものを行いたい」という生徒会の考えのもとにスタート。手書きのチラシや募金を入れるペットボトルの工夫、協力を表すリボンの設置などが積極的に行われました。また「皆が継続的に少しずつでも募金できるように」と各クラスでも毎日地道な呼びかけが行われ、級副や宗教委員が募金を集計し職員室まで運ぶなど、生徒自身ができることを考

え、実行しました。その結果、32万円という募金を達成することができたのです。聖書に「傷ついている人こそ私たちの本当の隣人」というメッセージがあります。今回の活動は世界平和に目を向けた学校全体の愛の軌跡であり、それが大きな奇跡を生み出しました。さらに次の奇跡へとつながる活動ができる、そんな学校でありたいと常に願っております。

